

今何をすべきか2

先週は、学習指導要領改訂案に向けた準備の一部を書いたが、通常、今の時期にすべき大切なことはたくさんあると考えている。

2つある。

1つは年度内のこと、もう1つは次年度への連絡である。

年度内のこととは、当たり前なことだが、年度内にしなくてはならないことをしっかりすることである。指導計画にある内容を確実に終わらせること。できれば復習と次年度への見通しに時間をかけることができればなおよい。

そして、次年度への連絡である。経験上、意外とここが不十分で失敗を起こすことがあった。

学力（成績）の状況は学年（学校）全体の共通理解として、組織全体として次年度への連絡はできるが、児童生徒の個人的なことは、意外と「抜ける」ことがある。

個人的な情報は、生徒指導部、相談部など組織として連絡することはできているはずだが、担当者や管理職の異動等が伴い、情報を受け実行するのも個人（担任）であることが多いため、うまくつたわっていなかったというリスクは高くなると考えている。

特に重要な連絡する内容は、児童生徒の人間関係、状況、保護者との約束などである。

児童生徒や保護者は、助けを求めるつもりで先生（学校）に伝えたことが、4月になったら全く伝わっていないくて、担任から「そんな申し送りはありません」と言われた段階で、信頼関係は一瞬に消えてしまうのである。

申し送りがある支援が必要な児童生徒については、学級発表があつたらすぐに、担任（学校）からその児童生徒の家へ出向く位の丁寧さが必要と考える。これで、児童生徒、保護者は安心するのである。

さて、申し送りが確実にできるためにどうしたらよいか。

まずは、管理職の号令である。何を、いつ、誰が、誰へ、どのような形で、の工程を示し、視覚化することであろう。

担当者は、申し送り事項を記録するが、「ここに、これがあるよ」と工程に基づく方法と共に、情報の所在をまわりの同僚につぶやいておくことである。

異動がわかったら、工程の手順と共に、異動しない管理職や主任及び担当予定者に再度伝えておくことである。

忙しい3月だが、顧客（児童生徒、保護者）にとっては大切な時期である。

この時期をいかに落ち着いてゆとりを持って仕事を進めるか。ここがプロ教師の腕の見せどころだ。

家族は、自分の家の可愛い子供が学校へ行くことに期待し、うれしく、幸せに思うものである。この気持ちを大切にすることが全体の奉仕者としても公務員の職責であろう。

この時期、教員だけでなく、仕事を持っている者はみな同じであろう。

緊張感をもって3月を過ごしたい。